

北海道 みなとまち紀行

石狩編①

第 10 号

■石狩編①

今回、私が訪ねたみなとまちは、道都・札幌にほど近い石狩です。訪れた時期は秋も深まりを見せてきた昨年の 10 月上旬でした。

ところで、皆様は石狩に港が二つあることはご存じでしょうか？ その一つは小樽市にもまたがる重要港湾・石狩湾新港ですが、もう一つ地方港湾の石狩港があります。今回は、北海道の母なる大河、石狩川の河口付近にある石狩港から石狩湾新港に向かう徒歩の旅を太陽の沈みゆく速さと競いながら楽しんできました。

【徒歩旅のルート】

石狩へは JR 札幌駅近くのバス停留所「北 7 条西 1 丁目」から厚田行きの路線バスに乗って行きました（地図①）。これまで石狩にはいつも乗用車で行っていたので、バスの車窓からの風景は新鮮でした。創成川沿いの柳やポプラ並木、茨戸湖面のきらめきなどを眺めながら 1 時間ほど揺られていると降車予定の「矢臼場」^{やうすば}停留所に到着しました（地図②）。



矢臼場から望む北海道の母なる川、石狩川

ここからの徒歩の旅は、まず石狩川の左岸側に沿って歩き、旅の最北端で石狩港とも関連深い石狩灯台まで行った後、反転。今度は手稲山を望みながら海岸沿いの道を進み、石狩湾新港の掘り込み部にあるコンテナターミナルまで行くという約 15km のコースです。

さあ、いよいよここから徒歩旅の開始です。

【旅の最北端・石狩灯台へ】

さて、徒歩旅の出発点・矢臼場から見る石狩川は、河口に近いこともあり、雄大な川幅をとうとうと流れる、まさに北海道の母なる川にふさわしい風貌でした。明治期、英国の港湾技師 C. S. Meik は、北海道開拓を進めていく上で石狩川を活用して物や人を船舶で運ぶ「石狩川舟運」^{しゅううん}の重要性を当時の北海道庁長官・永山武四郎に進言しました。鉄道の発達によりその構想は実現しませんでした。雄大な石狩川を見ていると、彼の思いが伝わってくるような気がしました。

石狩川の堤防上の道を河口方向にしばらく歩き、途中から石狩発祥の地である石狩市本町地区に向



軒先でタコを干す風景



「石狩市観光センター・ゆめぽーと」に飾られたチョウザメ



石狩川河口渡船場の遺構

かう道路を進んでいくと家の裏で何かを干している光景に出くわしました。よく見るとそれはタコでした。石狩は鮭の好漁場であったため、江戸時代から松前藩直領地となり、その塩漬けが北前船で全国に運ばれていました。このタコ干しの風景は、物は違えど、石狩で海の幸と生活が今も結びついていることを垣間見た気がしました。

さらに進んでいくと、右手に「石狩市観光センター・ゆめぽーと」の看板を見つけたので、情報収集のため立ち寄ることにしました（地図③）。中に入って、かつて石狩川でも見られたチョウザメのはく製の横を通り過ぎると、期待通り石狩に関するいろいろなパンフレットが置いてありました。それを取捨選択していると、横の売店で地ビールを売っていることに気づいてしまいました。「今晚、風呂上がりに、これを飲んだら、さぞ旨かろうな」という考えが頭をよぎると、迷うことなくアルト、ピルスナー、レッドエールの3種類のビールすべてを購入していました。瓶ビールということもあり、これらがこれからの徒歩旅の最中、リュックのベルトを介して常にずっしりと肩にのし掛かってくることは分かっているのに、買わない選択はなかったのです。

「石狩市観光センター」からは、センター前の地図看板に描かれていた「石狩川河口渡船場跡」に向かうことにしました（地図④）。そこは矢臼場から見た石狩川河口橋が昭和47年（1972）に開通するまで「動く国道」と呼ばれた車両運搬船の運航に

使われ、その後も昭和53年（1978）まで人員輸送をしていた場所です。このような遺構を見ると、北海道開拓における先人の苦労のもとに現在の暮らしがあることを感じずにはられません。

そこから本町地区の大きな通りに戻り、かつて菓子製造を営んでいた旧金谷商店石倉や味噌醤油を製造していた旧林醸造所レンガ蔵の間を通り抜け、「石狩八幡神社」で今回の旅の無事を祈ると（地図⑤）、いよいよ最初の目的地である「石狩灯台」の紅白縞模様がススキの上に見えてきました（地図⑥）。

【石狩灯台、はまなすの丘公園と石狩港】

「石狩灯台」は明治25年（1892）に点灯され、かつて映画「喜びも悲しみも幾年月」の舞台にもなった現存する北海道最古の灯台で、今も現役として石狩湾を行き交う船舶の安全を守っています。



石狩川堤防沿いに歩くと頭を出してきた「石狩灯台」



「はまなすの丘公園」で残り咲いていたハマナスと「石狩灯台」



原野の一本道

その周りには「はまなすの丘公園」が整備されていて、木道を散歩しながらハマナスをはじめ、様々な海浜植物を楽しむことができます（地図⑦）。

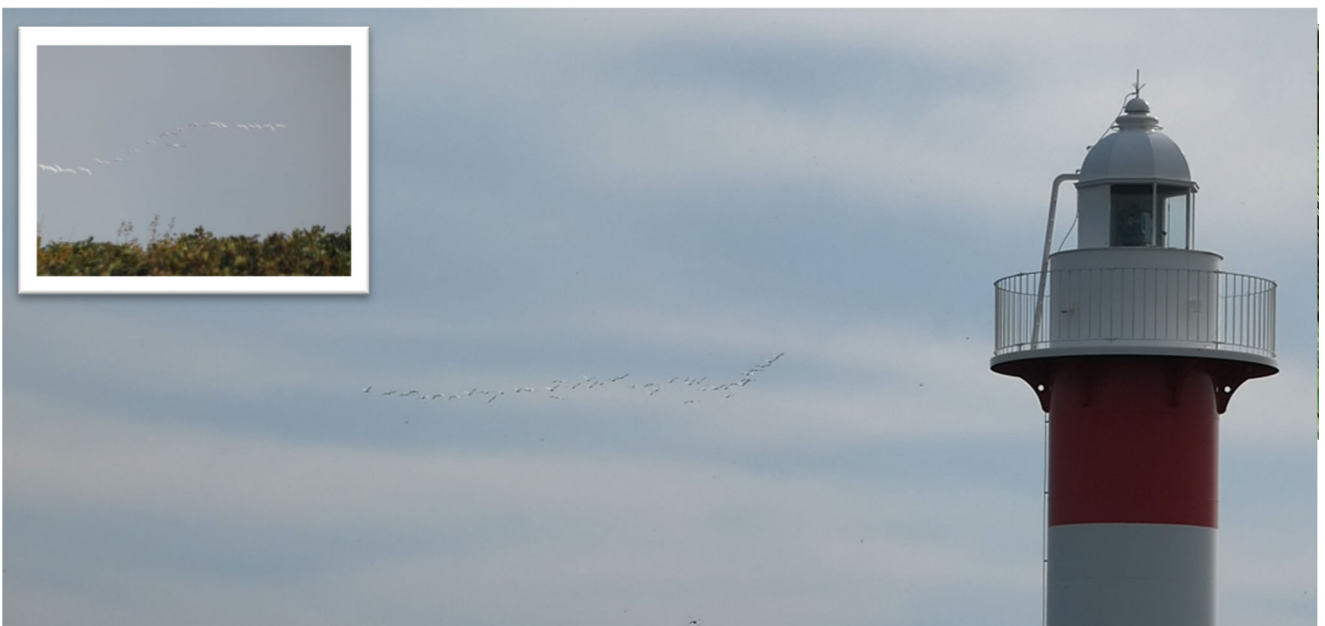
私が訪れたときには既にハマナスのシーズンはほぼ終わっていましたが、それでもわずかに残り咲くピンクの花や丸く真っ赤な実が暑寒別連峰^{しよかんべつ}の青い背景の中で際立って見えました。そして、ここから見渡せる海面が、地方港湾「石狩港」です（地図⑧）。戦後、1万tを超える貨物量を取り扱う港でありましたが、上流から運ばれてくる土砂等により水深が不安定になるという河口港の宿命や時代の変化に伴って、今はすでにその整備も終了しています。

昼ごはんの鮭おにぎりを食べて、さて、いよいよ「石狩湾新港」に向けて出発しようとした矢先、思

いがけない出会いがありました。「石狩灯台」の上をけたたましい鳴き声を出しながら、越冬の地に急ぎ向かう白鳥の群れが現れたのです。そのV字飛行は、これから残り10kmの徒歩旅に向かう私にエネルギーを注入してくれました。

【浜沿いの原野の間の一本道】

「はまなすの丘公園ヴィジターセンター」の前の道を海側に曲がると（地図⑨）、これから石狩湾新港までの浜沿いの道をひたすらに歩いていくことになります。「石狩浜海浜植物保護センター」を過ぎ「石狩天然温泉・番屋の湯」^{ばんや}まで来て（地図⑩・⑪）、ふと海側に顔を向けると夏場の喧騒^{けんそう}が幻であったかのように静まり返った「石狩浜海水浴場・あそびーち石狩」が見えたのも束の間（地図⑫）、再



「石狩灯台」と、越冬地に急ぐ白鳥の群れ



一本道わきに咲いていたハマエンドウ

び頭上から白鳥の群れのエールが届きました。さあ、これからいよいよ原野の中の一本道に突入です。

実はこの一本道は、かつて何度も歩いたことのある私にとって慣れ親しんだ道でもありました。ただ季節の違いのせいもあるのか、昔よりススキが幅を利かせているように感じました。それでも道端に時折現れるハマナスの花や実、そしてハマエンドウの紫は昔の記憶と同じ美しさでした。なおも歩みを進めると、陽も傾いてきた浜側の原野越しに洋上風力発電の風車が見えてきました。いよいよ石狩湾新港が近づいてきたようです。洋上風力発電は昨年 1 月から営業運転が開始されたのですが、石狩市沖は再エネ海域利用法に基づく「有望区域」にもなりましたので、再生可能エネルギーの供給拠点として、これからますます重要な役割を担っていくことになりそうです。

【石狩湾新港から未来へ】



船にリサイクル用金属を積み込む様子



原野越しに見えてきた洋上風力発電風車

「石狩湾新港」エリアに入ってきました。春から夏にかけていしかり湾漁協「朝市」で賑わう漁港区を過ぎると（地図⑬）、大きな船に何かを積み込む姿が目に入ってきました。リサイクル用の金属を船に積み込んでいるようです。石狩湾新港は平成 15 年（2003）に国土交通省からリサイクルポートに指定され、関連企業の背後立地も進んでいますので、盛んにリサイクル関連貨物が取り扱われているようです。

次に中央地区にあるエネルギー供給拠点のタンク群が見えてきました。その先端にあるのが平成 24 年（2012）に運転を開始した LNG（液化天然ガス）の輸入基地です。LNG は他の化石燃料と比較して燃焼時の二酸化炭素排出量が少ないため、環境にやさしい燃料としても知られていて、ここから札幌圏をはじめ道内各地に運ばれているようです。

もうそろそろ陽が落ちようとする頃、石狩湾新港の掘り込み部に着きました（地図⑭）。だいぶ寒くなってきましたが、今回の徒歩旅も終わりに近づいてきました。掘り込み部の向こう側には、夕焼け空を背景に洋上風力発電の風車や LNG 火力発電所のシルエットが浮かび上がっていました。そしてついに最終目的地であるコンテナターミナルに到着です。

15km の道のりを歩いて感じたことは、北海道を支えてきた石狩のみなとまちの歴史です。石狩市内の紅葉山^{もみじやま}49 号遺跡から約 4,000 年前の鮭漁の仕掛けが発見されたことから、鮭は古くから石狩に住んでいた人々の生活を支える食料等に利用され



LNG(液化天然ガス)輸入基地

ていたことは間違いないと思います。江戸時代にその鮭を塩漬けにして全国各地との交易を始めたことが、本格的なみなとまちとしての石狩の始まりであったと想像します。その後、地方港湾・石狩港が、また石狩川河口渡船が北海道の発展にそれぞれの役割を果たし、そして今、石狩湾新港がリサイクル、カーボンニュートラル社会の実現に向けた役割を果たしていくため、機能の充実を図っています。また今回の徒歩旅の最終地点、コンテナターミナルの対岸では、毎年、真夏に「RISING SUN ROCK FESTIVAL in EZO」が開かれ、多くの若いエ

ネルギーが結集しています。このように多様なエネルギーが集まってくる石狩湾新港がこれからの未来社会を支える港の一つになっていくことを確信して、今回のみなとまち紀行を締めくくりたいと思います。

P.S. 今回の徒歩旅の最終地点・石狩湾新港コンテナターミナルから最寄りのバス停がある石狩市役所までさらに 3km 以上ありました。このため、この日の実際の歩行距離は約 20km となりました。でも歩行中、常にずっしりと肩に重みをかけながら労苦を共にした我が友、地ビールが、風呂上がりの私の喉を潤し癒してくれるはずでした。しかしながら、帰りのバス中、ふとある考えが脳裏に浮かんできました。「待てよ。今日、これから直ぐに栓を抜くと、20km リュックの中で騒いでいた友が喜び勇んで泡になって噴き出してくるのではないかと。」と。結局、友に喉を潤してもらったのは翌日となりました。「友あり。遠方より来る」という感じ？ それも「また楽しからずや」

(平澤充成 記)

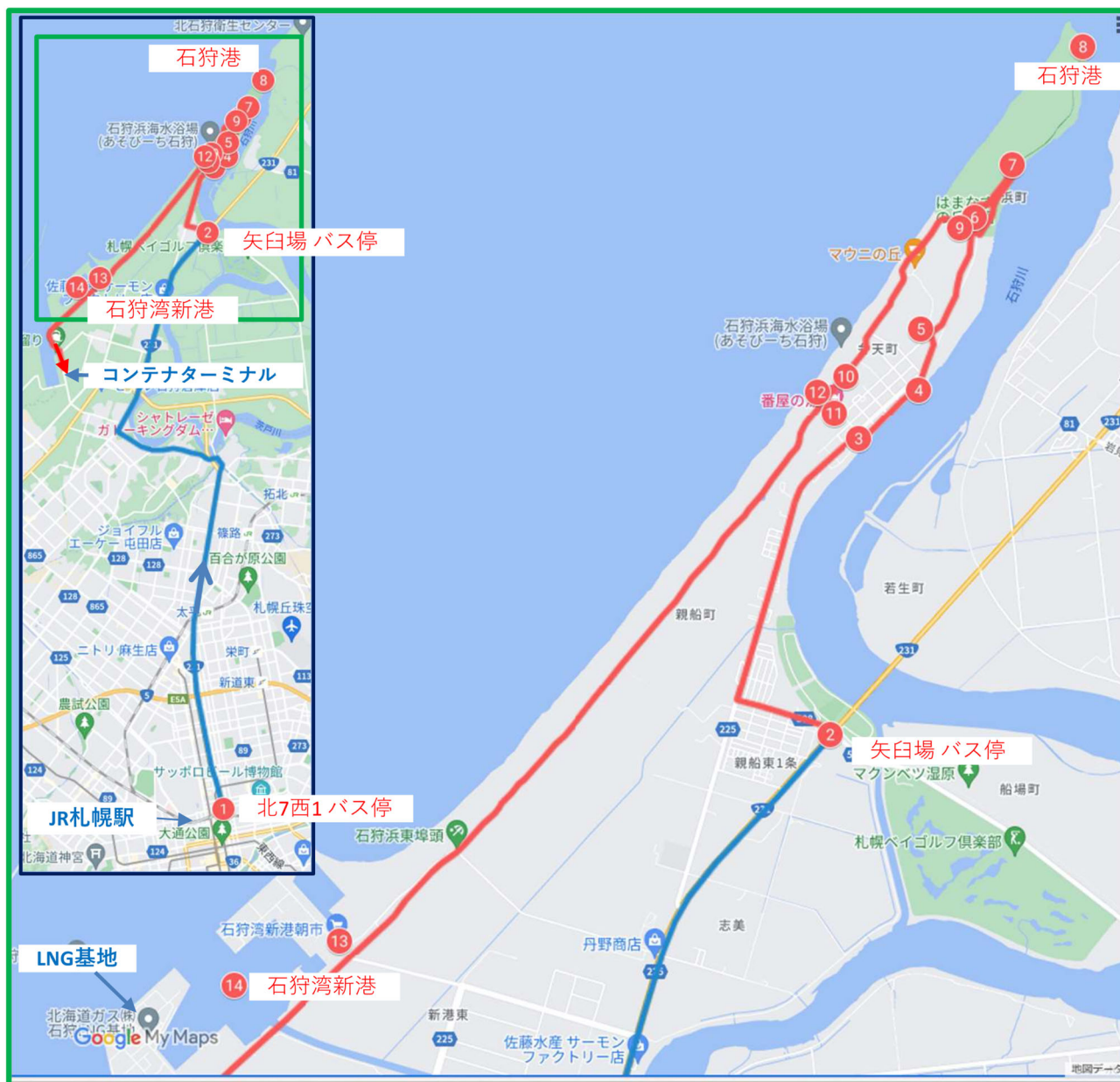


ROCK FES 会場と掘り込み水路越しに対面するコンテナターミナル



夕焼け空に浮かぶ LNG 火力発電所と洋上風力発電風車のシルエット

【今回の散策ルート】



- ①北7西1 バス停 →②矢白場 バス停 (路線バス利用)
- ②矢白場 バス停 →③石狩市観光センター・ゆめぽーと →④石狩川河口渡船場跡 →
- ⑤石狩八幡神社 →⑥石狩灯台 →⑦はまなすの丘公園 →⑧石狩港 →
- ⑨はまなすの丘公園ヴィジターセンター →⑩石狩浜海浜植物保護センター →
- ⑪石狩天然温泉・番屋の湯 →⑫石狩浜海水浴場・あそびーち石狩 →
- ⑬いしかり湾漁協「朝市」 →⑭石狩湾新港

【今回の散策ミニ情報】

地図③

石狩市観光センター・ゆめぽーと

石狩市親船町 107 番地

電話 0133-62-4611(石狩観光協会)

開館期間 年末年始を除く毎日

営業時間 8:45～18:00(11 月 1 日～3 月 31 日は～17:15)

入館料 無料

※レンタサイクル(9:00～17:00)も受付

地図⑨

はまなすの丘公園ヴィジターセンター

石狩市浜町 29 番 1

電話 0133-62-3450

開館期間 4 月 29 日～11 月 3 日

営業時間 9:00～18:00

(9 月 1 日～11 月 3 日は～17:00)

入館料 無料

地図⑩

石狩浜海浜植物保護センター

石狩市弁天町 48 番地 1

電話 0133-60-6107

開館期間 4 月 29 日～11 月 13 日

(冬期間は閉館)

営業時間 10:00～16:00

定休 毎週火曜日(祝日の場合は翌日)

入館料 無料

地図⑩

石狩天然温泉・番屋の湯

石狩市弁天町 51 番 2

電話 0133-62-5000

営業時間 10:00～24:00

定休 なし(悪天候により閉鎖あり)

日帰り温泉料金

大人(中学生以上) 800 円、

子供(4 歳～12 歳) 100 円、

シルバー(65 歳以上) 750 円

地図⑪

石狩浜海水浴場・あそびーち石狩

石狩市弁天町地先

電話 0133-62-5554(管理棟)

※期間外は石狩観光協会(0133-62-4611)まで

駐車場料金

一日普通車 1,000 円、

二輪車 300 円(1,700 台収容)

開設期間 7 月 6 日～8 月 18 日

地図⑬

いしかり湾漁協「朝市」

石狩湾新港東ふ頭

(石狩市新港東 4-800-2)

電話 0133-62-3331

(石狩湾漁業協同組合)

営業期間 4 月上旬から 7 月中旬の
7:00～12:00 頃(売り切れ次第終了)

※悪天候により休漁で休む場合あり

<連絡先>

NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階

e-mail アドレス mail@minatobunka-npo.info

ホームページ <https://minatobunka-npo.info>